

ゴンちゃん モンちゃん

Vol. 3 平成12年 7月12日発行



里山エコスクールin中山の森 ～里山林で学ぶ自然と環境と人の知恵～

この事業は(社)国土緑化推進機構の「緑と水の森林基金」の助成を受けて行っています。



第3回里山エコスクールの概要

森の環境を知ろう

森の環境は一本一本の木や草や動物たちが作っています。そこが気持ちの良い場所であったり、なんとなく落ち着かない所に感じるのそれはなりに理由があります。第三回目になる今回の里山エコスクールでは一本の木について詳しく観察し、その木の一生や育っている周りの環境をあれこれ想像してみて森の成り立ちの不思議さに触れました。また、人間が森を気持ちが良いと感じる理由を、いろいろな実験やゲームで感じて見ました。



プログラムの流れ

この木気になる一本の木(午前)

クラスで気になる一本の木を選ぶ。何故この木を選んだのか、皆で納得する。小さいとか、葉っぱがかっこいいとか、理由は何でも良い。大きなコナラを選んだスズメバチ班やヒヨロリとしたソヨゴを観察したワシ班など。選んだ木のプロフィールをあれこれ調べる。

次はその木になったつもりで気持ちを作文に。その木を元気にするアイデアや逆に枯らしてしまう方法なども考えてみる。自由に歩き回れない木と友達になったり、尋ねていくと喜ぶと感じるこどもが多かった。

森の環境調べ(午後)

気持ちのいい場所と、気持ちがよくないと感じる場所を選ぶ。何故そうなのかをクラスで話し合うことになるが、まずはデータ採り。気温や明るさ(相対照度で)、湿度や地面の様子などを記入して考える。梅雨の晴れ間だったせい気持ちのいい場所はなかったと報告するクラスも。明るさや林の混み具合は環境に与える影響が大きいとの結論。

一本の木についてじっくりと皆で調べ、その木の身になって考えることは普段あまりないためか、熱心にプログラムに取り組んでいたようです。木の葉の枚数を数えたり、体重を推定してみるなどは少しこどもたちに判りにくかったかもしれません。季節が移り、スクールにも慣れたせい、プログラムは比較的スムーズに進んだようでした。森の中の気温の移り変わりも毎回のスクールで記録されています。

